

『青本外題張込集』細目

文章より絵画を主体とした草双紙は、原装のままという、保存のよいものは多くない。東京都立中央図書館、松浦史料博物館などには相当量所蔵されているが、これで全部とは云えない。外題簽は、板元、刊年などを知るには有力なる手掛りとなるため、研究にはことに重要性が認められている。従来から、この絵題簽だけを集めたものがあって、中では、岩崎文庫蔵本などは有名である。それには及ばないが、当館に『青本外題張込集』二冊がある。一冊は大正十一年に、他一冊は大正十三年の購入である。前者は、丹表紙（さらに図書館の覆表紙あり）、横本、林若樹旧蔵本であり、一面に一枚宛、刊年順に貼布し、五〇丁、二五九枚である。後者は一面に六枚、上下に貼ってある。九丁、九五枚。上中下揃っているのが多い。前者は、刊年・作者・画者など注記を施してあるので、一応これに従った。前者には袋も若干貼ってある。第二冊目は、第二丁裏から始まっているので、表を失ったのであるまいか。書名と、板元とを列記したが、浜田義一郎氏の「黄表紙題簽一覽」と一致するものもあり、不一致不載のものもある。

（朝倉治彦）

第一冊

赤本

渡辺つな物語

二面かちどき草刈鎌

下

山本九左重門

鶴屋

黒本

収すみのゑんくミ

いせや

諸願連理斬	下	松村
風流采女物語	上	岩戸屋
風流妖相生の盃	下	鶴屋
助六一代政宗	中	鶴屋
化物車ひき	下	鶴屋
紫式部	下	伊勢屋
大磯地蔵咄	上	村田
由良の湊三庄太夫	下	村田
物とんだ茶釜	上	鶴屋
守屋の大臣	中	鱗形屋
雨請小町名哥栄	下	西宮
盛景両面鏡	上	奥村
鉢かつき嫩振袖	中	鱗形屋
悪魔除鐘膺勢	卷数不読	奥村
雪御芳野	下	鱗形屋
月武蔵野	下	
日本花判官眞負	下	
古戦場鐘懸之松	五段統	下
臥夜黒牡丹	下	鱗形屋
団十郎蓬芥伝	下	鱗形屋
嫁納諏訪湖	下	鱗形屋
仁王門礎	中	鱗形屋
浮世栄花枕	下	松村
四天王昔扇	下	鶴屋

青本

安永五年

夜明茶吞齋 下

安永六年

三升増鱗祖 上 (片外題)

糸桜本町育 下

江戸自慢恋商人 下

安永七年

松茸売親方 下

安永八年

卯花重奥川合戦 中

東都見物左衛門 上

朝顔姫 下

旭縁起那須佛 下

日本國三曲之鼎 下

安永九年

ついでない弟の甚六 下

呼子鳥 下

金々金平 上

夜野中狐物 上

とんだ時雨月 下

鱗形屋

西村

西村

西村

西村

九小

九小

鶴屋

西村

西村

鶴屋

鶴屋

鶴屋

奥村

西村

丸小

丸小

いせ治

遊人三幅対 下

とつともはやえらいさかへ 下

天明二年

道風伊勢物語 中

菊寿盃 下

金山寺大黒傳記 下

天明三年

啞多雁取帳 上 (片外題)

牡丹餅棚有 中

牡丹餅棚有 下

二人孝行 下

天明四年

復讐二葉松 五

親動性桃太郎 中

大黒上富米福神 下

天明五年

天道大福帳 下

間似合噓言會我 下

道笑雙六 中

星月夜坊主道行 下

鬼通意噓鳴物語 下

天明六年

壁と見多細身の御太刀 中

化物楽屋異牒 下

いせ治

奥村

西村

西村

村田

鱗形屋

鱗形屋

奥村

奥村

松村

松村

鶴屋

鶴屋

鶴屋

鱗形屋

鱗形屋

葛屋

葛屋

いせ次

いせ次

いせ次

鶴屋

西宮

天明七年

世之中諸事天文 下

仮名手本不道人蔵 下

天明八年

文武二道万石通 上

今日現金湯起請 上

夫徳奢玉得 下

二挺鼓 下

敵討雪月花 下

寛政元年

碑文谷利生四竹節 上

世の中承知重忠 下

臭氣靡於屁倉榮 下

寛政二年

心学早染艸 中

即席耳学問 下

本樹真猿浮気斬 上

茶夏加減役割番附 中

聴従浅黄色事 中

雄長老寿話 上

茶事加減役割番附 下

人間万事西行猫 下

寛政三年

磁鉄頓智才兵衛 中

榎本

西村

西村

葛屋

榎本

岩戸屋

つたや

伊世治

榎本

鱗形屋

西村

西村

大和田

つたや

つたや

つたや

いせ次

秩父屋

つたや

いせ次

西宮

西村

京鹿子娘泥鯨汁	下	泉市
枯木華作者書願	下	榎本
擲交野郎蒲鉾	下	榎本
石上三之助辛抱	下	西宮
壬生踊戲作面目	下	秩父屋
御存高麗屋伝	下	泉市
まつら白老の仇浪	下	泉市
敵討道々巡	中	西村
寛政四年		
梁山一步談	中	つたや
梁山一步談	中	つたや
梁山一步談	下	つたや
寛政五年		
小人国殿桜	上	鳶屋
宿昔語筆操	下	鳶屋
人唯一心命	中	鳶屋
染相性男女古袴	下	泉市
白髪明御渡申	後	つる屋
大仕掛三界會我	上	秩父屋
苺萱染衣日記	中	榎本
二代大中黒	下	榎本
花団子食家物語	中	大和田
銘正夢楊柳一腰	上	つるや
出世之角松	上	村田
親親道成寺	下	西宮

寛政六年		
全交法師常々艸	中	鶴屋
百人一首戯かうしやく	中	泉市
百人一首戯かうしやく	上	泉市
春遊相場將門	下	村田
寛政七年		
桃食三人子宝斬	下	村田
敵討義女英	上	泉市
敵討義女英	中	泉市
敵討義女英	下	泉市
浅草双紙洗小町	下	鶴屋
寛政八年		
油断敵薬功能書	上	西宮
化物年中行状記	上	西宮
御膳浅草法	下	鳶屋
堪忍五両金言語	中	岩戸屋
小雨衆雨見越松毯	下	鶴屋
報讐癪狂夫	中	鶴屋
怪化鏡箱根戯物	下	西宮
怪席料理猷立	下	西宮
昔語狐娶入	下	榎本
寛政九年		
富士色板絞會我	下	泉市
今昔狐夜話	中	榎本

釣戎水揚帳	下	村田
擲師直開帳	下	榎本
太平記無礼講中	下	西宮
安倍清兵衛一代八卦	中	鶴屋
庭荘子珍物茶話	中	鶴屋
大黒楹黄金柱礎	上	鶴屋
寛政一〇年		
猿茂延命亀万歳	上	西村
家内手本用心蔵	上	鳶屋
家内安全鼠山入	中	村田
敵討柳下貞婦	下	泉市
一陽来伏帳	上	村田
摹書筆廻気	下	宝屋
寛政一一年		
五体和合談	中	鶴屋
京伝主十六利鑑	下	鶴屋
料理茶話即席説	下	鶴屋
鯨魚尺品革羽織	下	鶴屋
敵討住吉詣	下	岩戸屋
寛政一二年		
娘敵討扇銀面	上	泉市
貧福蜻蛉返	下	村田
出世鯉四方滝水	下	村田
視葉霞報条	中	鶴屋

人間万事塞翁馬 中

亨和元年

福貴自在金藏玉 下

日本一癡鑑 中

競腰業平形 中

雲飛脚二代羽衣 中

雲飛脚二代羽衣 下

亨和二年

綿温石奇効報条 上

吞込多靈宝縁記 中

通喜智之銭光記 上

夏木立恋重荷 下

敵討時兩友 上

敵討時兩友 中

昔語由良湊 上

夏粉男達綺 下

養得姉名鳥図会 下

又焼直鉢冠姫碑史億説年代記 上

亨和三年

仇敵碓打手 中

鎌倉街道女敵討 下

木殿杜野狐復讐 下

安部仇討後編話 上・下

鶴屋

泉市

泉市

西村

鶴屋

鶴屋

鶴屋

泉市

鶴屋

鶴屋

鶴屋

榎本

西村

西村

泉市

村田

榎本

鶴屋

西宮

岩戸屋

西宮

西村

村田

大中黒本種 下

深山草化物新話 下

画解平家物語 下

文化元年

敵討水潜蜀江錦 下

仇執孝行車 中

恋仇狐助太刀 中

人慾見通下巫 下

妻乃復冠千足牛 上

恩愛猿仇討 上

二人拍鄙言 下

娘敵討陸友綱 上

敵討春手枕 上・下

文化二年

荏土自慢名産杖 上・下

仇報後編都印籠 下

猫奴牝忠義合奏 中

昔話桃太郎伝 下

返咲八重之仇討 上

金沢弥二郎廻国談 下

後編金糸之詰縫 上

源家武功記 下

富士日記曾我社 下

文化三年

岩戸屋

村田

榎本

泉市

西村

西村

山口屋

西宮

岩戸屋

岩戸屋

鶴屋

岩戸屋

泉市

葛屋

泉市

鶴屋

西村

岩戸屋

山口屋

榎本

榎本

榎本

榎本

後編妹背扇

柳四郎兵衛後篇 上

復讐岐枝川前編 上

敵討両輔車 前編 下

武者修行木齋伝 前編 中・下

敵討雑居寝物語 前編 下

後編武者修行木齋伝 中

後編敵討雑居寝物語 上

後編嵐山花仇討 上

後編敵討鶯酒屋 中

再版後編敵討姥捨山 上

文化四年

後編遠森之渡 上

三重忠孝貞初編 上

三編三重忠孝貞 中

後編嶋廻幸助舟 中

後編手打新菱麦 上

敵討轆轤首嬢 中

敵討岬幽叡 前編

敵討岬幽叡 後簡

仁王坂英雄二木

復讐大全筆の山物語 中

文化五年

増補執柄太郎 中

西村

西村

泉市

鶴屋

鶴屋

鶴屋

鶴屋

鶴屋

岩戸屋

泉市

泉市

泉市

泉市

泉市

泉市

泉市

泉市

西村

西村

葛屋

葛屋

岩戸屋

岩戸屋

泉市

雲飛脚二代羽衣	上・中・下	鶴屋	作者根元江戸錦	上・下	西村	助たち	上	(片題簽)	山口屋
彼岸桜勝花談義	上・中・下	鶴屋	曲亭増補万八伝	上・下	鶴屋	大黒始	下	(片題簽)	山口屋
警論義理興禰禪	上・中・下	鶴屋	御慰忠臣蔵之致	上・下	鶴屋	金平	下	(片題簽)	山口屋
鬼燈提灯教捷徑	上・中・下	宝屋	金世界捕能艶	上・下	榎本	両説嫁入奇談	下		山口屋
聴従浅黄色事	上・中・下	秩父屋	鯨魚尺品革羽織	上・下	鶴屋	五体和合談	上		鶴屋
天狗躑躅江戸子	上・中・下	秩父屋	狂言末広栄	上・下	鶴屋	雅種軍談	四		西村
現金青本之通	上・中・下	鶴屋	金生木息子	上・中・下	山忠	頼朝七騎落	上		鶴屋
敵討鞍馬天狗	上・下	(黒本)	庭莊子珍物茶話	上・下	鶴屋	時代世話一挺鼓	下		つたや
君臣高館鑑	下・中	(黒本)	照子浄願梨	上・下	鶴屋	前編仇報孝行車	下		西村
染分模様	下	(黒本)	御年玉	中・下	葛屋	艶哉女傭人	上・下		鶴屋
枯木華作者誓願	上・中・下	榎本	正月故夏談	中・下	鶴屋	悖入宝山吹	上		西宮
仇敵意写絵	上・中・下	泉市	吾孀街道女敵討	中	西宮	出世の角松	下		村田
両説嫁入奇談	上	山口屋	須叟之間方	下	つたや				

大阪府立図書館紀要・第九号

昭和三十九年十二月に創刊された『大阪府立図書館紀要』は、年一冊のわりで刊行されている、見識のある非常に高度な雑誌である。第八号までの紹介については、次号にゆづるとして、創立七十周年記念特集号の第九号について披露しておきたい(最近、館の建物は重文に指定された)。

一八六頁、二段組、写真入り。所収十四篇。内容を大きく二つに分けると、大阪府立図書館についての歴史的研究と架蔵資料についての考証となる。これは、大きな歴史ある図書館にして、

はじめて企画できることであるとともに、館としても、館員としても、誇りを持っていることも、また意味しているであろう。執筆も松尾館長自身陣頭に立って、創立の意義を説き、館内、館外に論考を求めているが、学界にその名を聞く方々も参加しておられ、館の重味を感じさせる。

館所蔵の、あるいは大阪府に関係深い資料についての考証は、いづれも、近世文化史研究には、重要なものばかりである。力ある館員を擁している強みを、十分に發揮しているといつてよいだろう。館の紀要中に、これほどの学術的なもののあることは、館の運営上の資料理解の姿勢を暗示してしていると観察した。

(中尾松泉堂拔、定価四〇〇円)